

S P E C I A L I N T E R V I E W S

司法書士としての役割を広げ 幅広いニーズに応える事務所

2004年にスタートし、2007年に沖縄で初となる司法書士法人となった「司法書士法人 匠 事務所」。司法書士の仕事として一般的な登記業務だけでなく、企業法務のサポートや成年後見人としての財産管理なども行っている。本日は布川敏和氏が同事務所を訪れ、宮城先生にお話を伺った。



司法書士 宮城 匠

布川 宮城先生がこのお仕事をされるようになったきっかけは何ですか？

宮城 学生のころから不動産や金融に興味があり、司法試験合格を目指したことがきっかけですね。卒業後、司法書士事務所に勤務しながら資格を取得しまして、2004年に独立。「匠司法書士事務所」をスタートした次第です。現在は司法書士3名とスタッフ9名で仕事に取り組んでいます。

布川 どういった相談が多いのですか？

宮城 相続や売買などの不動産登記はもちろん、会社・法人設立や経営・事業再生コンサルティング、相続などの家事事件、債務整理や債権回収などの法律相談など、幅広いご相談が寄せられます。当事務所では、3名の司法書士がそれぞれ専門分野を設け、クライアントの幅広いニーズに対応できるような体制を築いていましてね。司法書士の一般的な仕事で

ある登記業務だけでなく、企業法務のサポートや、成年後見人としての財産管理なども手掛けているんですよ。

布川 財産の管理は通常、親族が行うものですよね？

宮城 そうですね。しかし、最近では高齢化が進んだことから、判断能力の衰えた方の財産管理を親族が管理できない場合も増えており、裁判所から第三者の後見人として私たち司法書士が指名されることがあるのです。

布川 なるほど。では、先生がお仕事をされる上で気を配っておられることは何でしょう。

宮城 沖縄と内地の方とは、少し感覚が違いますから、沖縄で生まれ育ったスタッフには、仕事には少しシビアに取り組むようにと話しています。もちろん沖縄には沖縄の良さがありますから、それは大切にしながら、仕事の丁寧さや迅速


さなど内地の良さを組み合わせることで、より良い業務推進につなげていきたいと思っています。

布川 お話も尽きませんが、最後に今後の展望をお願いします。

宮城 当事務所独自の体制を活かし、司法書士としてのメイン業務だけでなく、企業法務のサポートや消費者問題、成年後見人としての財産管理など、幅広い業務に取り組んでいきたいですね。また、税理士や弁護士、公認会計士といった士業に携わる人とのネットワークを活かして、クライアントのあらゆるニーズにお応えしていきたいと思っています。

布川 お話ありがとうございました。
(取材 / 2009年10月)


GUEST COLUMN



ゲスト 布川 敏和

幅広いニーズに応える姿勢が魅力ですね

「宮城先生は一人で業務をこなしていて、何かあったときクライアントに迷惑がかかることがないように、『司法書士法人 匠 事務所』の法人化を決意されたそう。現在は3名の先生方がそれぞれ専門分野をお持ちで、様々な依頼に応じておられます。沖縄県だけでなく本州からも相談に訪れる方がたくさんおられ、頼れる事務所として認知されているようです。これからの益々の成長に期待しています」



EXPERT'S EYE

* こちらの記事は【http://www.kokusaig.co.jp/1001/jn_e-takumi/】でもご覧いただけます。